

206

北支の風雲と聯軍の真相

特 240

247

新編

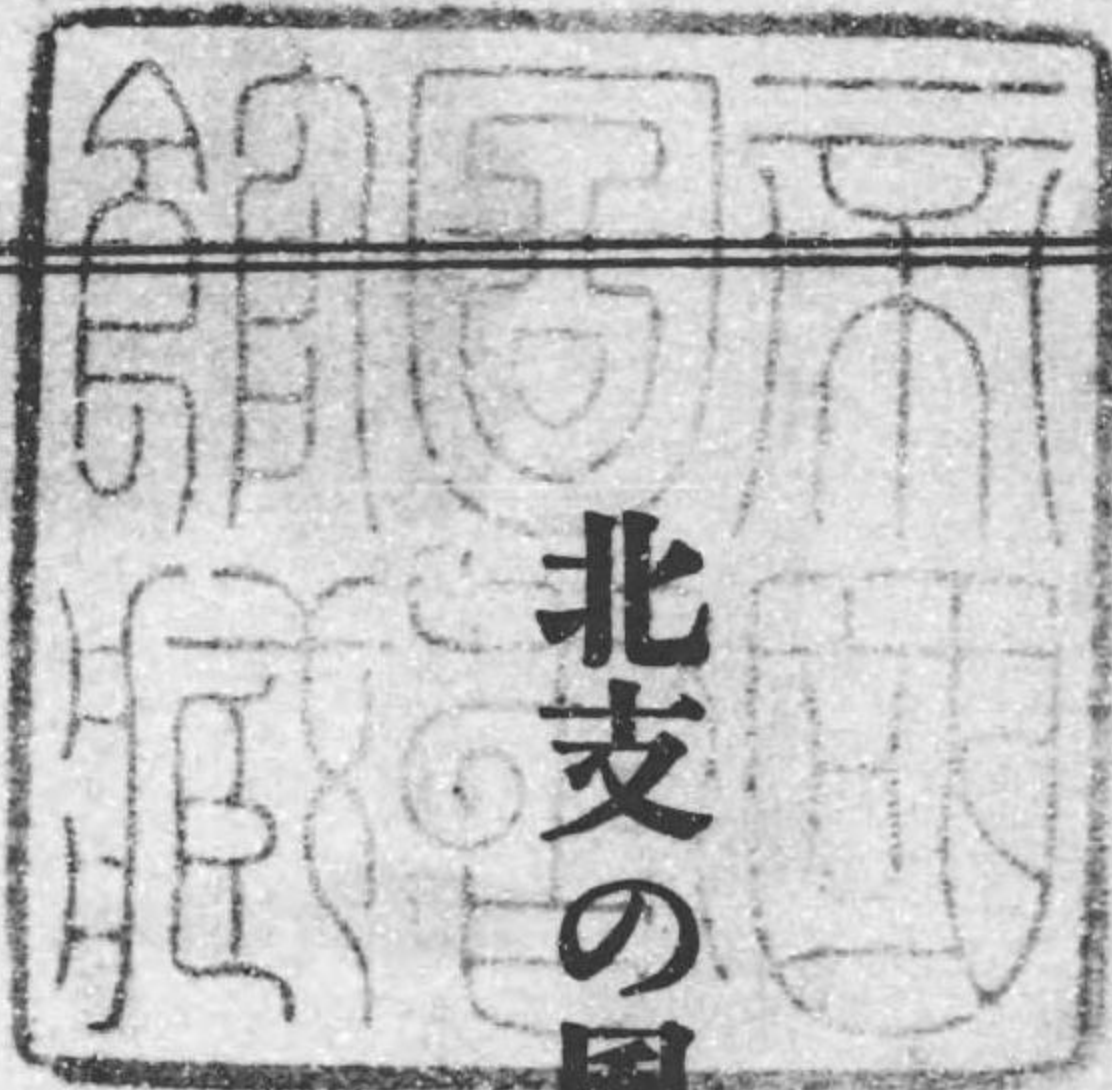


始





特240  
247



昭和八年三月三日第八十九回  
朝日民衆講座講演速記

北支の風雲と聯盟の真相

東京朝日新聞社發行





—(目次)—

すべては自衛本能から

關東廳外事課長

御厨信市……

平津より熱河を見る

朝日新聞論說委員

大西齋……四一

すべては自衛本能から

—ジユネーヴ土産話—

關東廳外事課長 御厨信市

ジユネーヴの國際聯盟臨時總會から歸りますと、私は直ぐ滿洲へ行けと云ふ命令を受け明日發つことになりました。

何かジユネーヴの土産話をして行けと云ふ至極御尤もの注文である。土産話は山程あるが、何を申上げてよいか一寸纏めるに困ります。殊に歸國早々の際考へをはつきり纏めて申上げることは出来ませぬ。甚だ残念に思ひますが其點は何卒御諒承願ひます。私が與へられた時間では是位のことを申上げたらと思ふ二三の點を申上げて見たいと思ひます。

日本に歸りますと色々な質問を受けました。其中で特にこれはと思ひ、申上げて置かなければならぬと思ふ數點を茲にかいつまんで申上げたいと思ひます。先づ全體三月も四月も掛つてジユネー



ヴであんな大會議をした其結果が決裂に至つた。日本は聯盟を脱退しなければならぬ立場に立至つた。是は外交上失敗ではないかと云ふ質問を受けます。又色々新聞でも傳はつたが松岡さんの活動振りはどうであつたか餘り態度が強硬過ぎていけなかつたんぢやないか或は小國達は優勢の數を以てあんなひどい勸告案を作つてしまつたが全體認識不足から出て來て居るのではないか、松岡さんがあれだけ活動したけれども聯盟では本當に極東の事態を、滿洲を、支那を、理解しなかつたのではないか、或はあゝなつた以上聯盟は日本に經濟封鎖をするつもりぢやないか、又此會議を貫いた各國代表の指導精神は何處にあつたのか、と云ふやうな御質問を受けました。是等の問題を種にして與へられた時間お話し上げたいと思ひます。

### 會議決裂は却て日本に有利

第一、會議が失敗であつたかどうか、今迄の外交から行けば、會議自體が決裂に行くことは即ち失敗であると云ふ考へ方が行はれませうが、此ジュネーヴの會議は日本が當面して居り、なほ引續くものであり、過去に於て既に行はれて來た長い外交の一斷面でありませんが、目的は將來にある、

其目的を達成する上に有利であるか否かに依つて、即ち此ジュネーヴの會議の結果が成功か否かに付て判断しなければなりません。其意味に於て日本は將來極東の事態に對して、確立せる方針を思ふ儘に行ふ上に非常に有利の地位に立ちました。是は今から豫言して置いて宜からうと思ひます。此意味で會議は寧ろ成功であつたと言つて差支へないと思ひます。

聯盟の今度の會議は日本のみならず各國も非常な苦しみを經てあの點に到達しました。聯盟脱退迄行く日本の最後の結論は其苦しみの結果生れたものである。若しも日本が滿洲を自由に導くが爲にあの滿洲事變を起すと同時に、若くは其後上海事變が起つたりした後、日本が四面楚歌の後でない時、黙つて脱退したならば日本は非常にやましい事をするんだ、するつもりだ、しつゝあるんだと云ふやうな非難を受けたに違ひない。併ながら今日ジュネーヴ會議の長い苦しみの後に、自然と日本は脱退せざるを得なくなつた。何處にも無理のない自然の結果であります。これは日本にとつ非常に有利な状態である。日本が脱退することを誰も不思議と思はない。そして其結果が將來十年かゝるか二十年かゝるか或は永久にかゝるか知れませぬが、日本は焦土となつても現在の方針を貫かなければならぬ、この貫かうとする目的の爲に有利であるならばこれは寧ろ歓迎すべきであり



ます。私は聯盟に於ける決裂と云ふ結果は將來外交の上にも有利なものとして諸君と共に喜び申したいのであります。

### 氣魄で勝を制した松岡全權

次に松岡さんの活動振りであるが、もうこれは申上げる必要はないかも知れませぬ。新聞其他の情報で諸君は十分御承知のことと思ひます。けれども私等が松岡さんの側に付いて居つて見、感じた中で特に印象の深かつたことを二三お話し申します。松岡さんは今度の會議に日本の先頭に立つた代表として九千萬國民の中で之に匹敵する者はなかつたらうと思はれる程條件の具つた良い代表でありました。日本に生れて大和魂をうけ、アメリカで教育を受けて英語をマスターし正當の眞理を呑み込み、若くしては外交官となり相當年數外に使ひ、其手腕はよく發揮されました。壯年にして滿鐵の理事を二度もなされ、續いて副總裁になられ滿洲の事態を日本人の中で最も宜く認識され、最も正しい見識を持つて居られた。此事變の起る前に既に滿洲に對する經綸と方針、即ち滿洲をどうするかに付て確固たる信念を持つて居られました。それが此事變に依つて松岡さんが思はれた通り

考へられた通り、計劃された通りに事態は發展しつゝあります。なほ最後には大政黨の代議士として、政治家として相當の修業を積まれました。これだけの條件の具つた代表は先づ日本に見當らぬ、そのみならず人物として度胸があり、千萬人と雖も吾往かんの勇氣を持つて居る。これが會議に於ける日本の勇敢なる戦ひに非常に役立つた。斯の如く條件の具つた代表を持ち得た事は吾々の非常な幸福とする所であります。

併し何と言つても松岡さんは聯盟の會議に於ては初めてです、ズアの素人である。それが爲に實は吾々側について居りました者は、しつかりやつてくれ、ば宜いが、海千、山千のしたい、か者の出て居る聯盟、創立以來聯盟に居る聯盟通、しかも慣行を知つて居つて慣行々々で行かうとする賢い連中が居る聯盟、各國共に首相級、大臣級のよりぬきの者ばかりである聯盟、此中に交つて初めての素人であるが故に立遅れ、氣遅れ等のことがありやしないかと云ふことは内々心配して初めての理事會の議場に出たのであります。

前の晩心配の餘り松岡さんの寢室へ入つて「明日の喧嘩は大丈夫ですか」と私挨拶をしたら「ウム、明日の會議を理窟で始めて理窟で終つたら五分々々の喧嘩だ、五分五分の喧嘩では結局負けだ



支那の方が理窟の言ひ方は上手である、だからそれではいかぬ、明日の會議は我輩氣魄で勝つ積りだ。宜く意味は解りませぬでしたが氣魄で勝つと非常に景氣の宜い話であるので喜んで歸りました。

其翌朝愈々會議が始まりました。松岡さんが第一に口を切つて演説をされた。勿論本省からの訓令に制限されて半ば朗讀の憾みがありました。先づ口を開く前に檻から出た虎の如く、グツと胸を張つて、あの太い線の強い印象を與へる顔で場を睥睨された時、其時吾々は頼母しいと思つたのです。それから口を開いて日本の立場を率直に説明されました。

其前の春の臨時總會の時、其頃は最も險惡な空氣であつた、上海事變の後を受けて最も評判の悪い時、即ち佐藤全權が先頭に立つて居られた時でありました。聯盟の理事會、總會の會議で日本の最も主張せんとする急所に行くと思ふ、エヘ……と笑ふ、發言は傍聴者に許されませぬ、此笑ひを以て日本の主義主張を殺したものである。是は議事録にも何とも現れて居りませぬ。併ながら其場の演説の効果を殺ぐことこれより強いものはない、笑殺される、之を佐藤全權は最も心配せられた、松岡君の演説もそれで迎へられやしないかと非常に心配して行かれたのであります。

吾々もそれを心配して居るから、此松岡さんの虎の如き態度に睨まれたか、睨まれて萎縮したか、注意を喚起したのか、皆がズツと顔を前に出して何を此物騒な男は言ひ出すだらうと云ふやうな恰好にして耳を傾けました。そして正しい、強いあの主張を誰一人笑ふ者がない、五十分か一時間の演説は斯うして終りましたが、非常に印象を深く與へたらしい。

午後に顧維鈞の演説があつたが何となく生彩がない。私は聯盟の總會に度々出た顧維鈞が支那の若い代表としてあの赤ら顔の鬪志満々たる英語のうまい、苦吉利人の中に入れても、亞米利加人の中に入れても勝れたる程の達者である彼が支那の爲に口を切ることは非常に恐ろしい、中々強い辯士があると思つて居りました記憶から考へ合して、今茲に現れて居る顧維鈞は全く別人の感があります。顔色も蒼白である、目を少々むき出して如何にも神經衰弱だと云ふ感じを與へられました。本國の訓令であるから先生が即席に直す譯には行かないでせうが、其主張が如何にも弱々しい、支那の宣傳を繰返し／＼やつてゐるので同じことを繰返すことになつてしまふ。長々と日本の歴史を説いて豊臣秀吉の朝鮮征伐のこと迄出さなければならぬ様なことになつた。何となく弱々しいので午前の松岡さんと其演説を較べて見ると成る程日本は氣魄で勝つた！と云ふ印象を與へられました。



た。

歸りに佐藤さんの自動車と一緒に歸つて参りましたが、佐藤さんは、先づ角力はしきりで勝つた形だと云ふ印象を漏されました。

吾々松岡さんの初舞臺に於ける戦闘振りがどうであるかと云ふことに對して多少の心配をして居つた者に對して非常な安心と信頼とを與へられました。そして理事會は進行し總會に移つたのであります。

### リットン委員會は死んでゐる！

特に松岡さんの戦闘振りが如何に力強く皆を呑んでかかつて、戦ひに勝つたかの澤山の實例の中で、デヴァアラ議長との太刀打ちの場面を暫く回顧致します。是は問題の本論を離れたやうに受取られました、實はさうでない理事會の議席は少し高い所ですが馬蹄形になつて居る、議長が眞中になつて、議長を入れて十四人、ドラモンドが議長の側にアッシスタントとして坐つて居ります。此議長デヴァアラは御承知の通り、愛蘭獨立の爲に一生を費した、そして何回となく投獄され、而

も其説を枉げず、英國政治界でも有数のした、か者であります、今愛蘭の總理大臣である。英吉利一流のしたたか者である故、國際聯盟の會議に於てもよりぬきの闘士である。此勇敢なる闘士と松岡さんとの太刀打ちに於てどうであつたか、何しろデヴァアラは人物に磨きがかつて居る。それに松岡さんはと云ふと若い。けれども此太刀打ちを見て居りますとデヴァアラ議長は、理事會ではどうせ此問題は持餘す事は分つて居る、其處で日本の意見書に對して、リットン委員會の救ひを求めて頭から日本を押しつけ様と云ふ策戦でありました。それをちやんと見抜いた松岡さんは此處でリットン委員會幽霊説をかつぎ出しました。それはもうリットン委員會は死んだものであると云ふ立前です。デヴァアラの招集に依つて此理事會の委員の末席の直ぐ後に五人のリットン委員會の方々が席を占めて居る。そしてリットンは我々こそは世界第一の極東問題のオーソリティーであるといふ様な顔をして、場を睥睨して居つた様であります。議長の諮問に應じて高邁の意見を吐くつもりで控へて居つたのであらう。此リットン委員會が理事會で物を言はうとしたのでありますが、茲で松岡さんは一寸待つてくれ「其處に居る五人はもう死んでる筈だ、何の爲に其處に居るのだ」と云ふ様な質問を致した。デヴァアラは「理事會の諮問に應じてレポートのことを聞くんだ」と云ふ。



「それはいけない、もう死んでる委員会に物を言はせる法はない」と云ふ。デヴァレラは「リットン委員会は死んで居ると云ふことは初て聞いた、どうしてさう云ふことを言ふんだ」と云ふので、松岡さんは「それはちやんと證據がある。」デヴァレラは「見せろ」と云ふ。其處で松岡さんは徐ろに「リットン・レポートの何頁何行を御覽なさい、リットン委員会は自分で書いてるぢやないか、本委員会は報告書を提出することに依つて完全に其職務を終了した」と「リットン委員会は其職務を遂行する爲に存在するのであつて、職務がなくなつたら同時に消滅するものである、どうだ」と言はれたのであります。

デヴァレラは非常にあわてた。まさかさう云ふ考へ方が出るとは思はなかつた、ぼんやりリットン委員会を招集して顧問格で置いた、吾々素人は考へて見たが解らぬ、此リットン委員会は友人だ此一年間極東問題を調べて其オーソリティーである、此人達に聞いたら矢張り斯うだと云ふぢやないか、と云うて日本を押へつけ様としたから、おつと待つてくれ、それ等は死んでる、死人に口なしと云ふから死人から物を聞かうとするのは非常な間違であると言はれたのであるから、デヴァレラはあわててドラモンドに何かさゝやいて居る。ドラモンドもそんなことを考へたことはないから

又後の書記官に話かける。これも亦そんなことを思つて居らぬものだから周章狼狽したものだつた其時のデヴァレラのあわて振りは今も目に浮んで来る程痛快のものであります。

デヴァレラが如何にあわてたかの證據であるが、聯盟の會議に於ては自國語、佛蘭西語及英語を使ひます、であるから英語で誰か議事を發言すれば必ず聯盟の通譯が佛蘭西語に通譯してそれが終らなければ他の發言が出来ない、それを間違へた、議長はそれを押へなければならぬのであるのに肝腎の議長自身がそれを忘れた、松岡さんがリットン委員会は死んでるぢやないか、と云うた時にそれはと云ふて、直ぐびつくりして喰つて掛つたもんだから通譯は非常にあわて、松岡さんの發言を佛蘭西語に通譯した、デヴァレラは、あ、さうだ、通譯をする必要があるんだと云ふことを知つて又腰を掛けた、通譯が済んでから、それは間違つて居ると云ふたのであるが、松岡さんは心得て居るから議長の言つたことを佛蘭西語に通譯をして居る間待つて居る。終ると直ぐ立つて發言をする、議長はあわて、居るものであるから通譯迄あわてちやつて、びつくりして立上つてやる。斯う云ふ様にして此會議は徹頭徹尾議長が、佛蘭西語に通譯すると云ふことを忘れた。それが餘り顔を眞赤にしてあわて、居ることが分つたものですから到頭一般の聴衆が吹出してしまつた。是でし



た、か者、デヴァレラと組合せても松岡さんは立派に呑んで掛つて居ると云ふ譯で、其戦闘振りに感心して吾々はすつかり松岡全權に心服してしまつたのであります。

斯う云ふ調子で行つた討議の内容は、諸君は既に御承知のことであるから申しませぬ。此問題が理事會に移りました。

今の此リットン委員會は死んで居ると云ふことを言はれた時に、リットンは中々威張つて居つたのが顔を赤くしたり、青くしたりして段々前の方に屈んぢやつて、見映えがない。

愈議長堪らないものであるから各理事の發言を求めた、救ひを求めたのである。先づチエツコスロバアキヤに求めた、此代表ベネツシユは非常に老練の聯盟通である、彼中々うまいことを言つた。即ち「リットン委員會は自分で職務を終了したなんて書いて居るが、自分で自分が消滅したと云ふことは實は言へない、理事會が消滅したと言ふ迄は自分であんなことを書いぢやいけなかつたのである、だから吾々が消滅して居らぬと認めて居れば消滅したものではない、但しリットン委員會は専門的の委員會であるが故に其發言は専門の事項に限られて居る、政治的意見は理事會其ものに專屬して居る、此意味に於て議長の説に賛成する」と言ひました。これは日本に取つて非常に有

利である、問題は政治的にリットン委員會の意見を尊重されることはいけなかつた。

次にマダリアガが質問を求めました。彼は口を尖らして日本に食て掛る様な顔をして「日本は間違つて居る、リットン委員會のあることはあるんだから、何時招集しても宜い、これは何時迄も存続するのだ、日支問題が解決する時まで存続する、理事會どころが總會の時迄存続するのだ」と云ふ脱線をして物笑ひになりました。

其結果サイモン英代表に發言を求めました。サイモンは立つて、理窟は負けたと思つたのでせう「どうも理窟を聞いて居ると色々あるので何とも言へぬが、まあ考へて見様ぢやないか、茲に居られる五人の紳士方は世界の大国中からより抜き立派な紳士方だ、此紳士方を前にしてお前等死んでると云ふのは失禮ぢやないか（笑聲）それより折角茲に五人居られるんだ、過去一年極東の事態を調査する爲に調査に行つて來られた見識のある方々である、理事會は之を利用する方が有益だ。適當とも、正當とも言はない、有益だと云ふ「有益なことではあらず悪くはないぢやないか」と云ふ妥協案を出した。其結果採決をした。日本は頑張つて頑として承知しない、で成立はしませんでした。但し日本の留保の下に十九國委員の賛成を得て、聞いて見様と云ふ様な譯で、其結果リット



委員會に諮問したのであります。

此問題は日本の意見書が出て事態があつたのであるが、之に鑑みて、リットンレポートを變更すべき點はないか、附加へることはないかと云ふことを聞きました。それに對してリットンは出て来て、丁度學校の先生に呼ばれた生徒の様な態度に今度は變つて居りました。そして委員會の苦勞を稱讚し、感謝し、日支兩國に御禮を言つた後、「此レポートは何等變更すべき點も、附加へる點もありませぬ、それで宜しい」と云うた。で此問題は、リットン・レポートを以て日本の考へを頭ごなしにやつつけ様とする陰謀は消えてしまひました。此外交に於ても松岡さんは勝利を得ました。

### 爆彈事件

最後に理事會に例の爆彈事件が起つたことは諸君御承知でありませう。此爆彈事件と申しますのは小國が二種類の決議案を出した、二國の決議案は消え、四ヶ國の決議案は適當のものであると云ふ、即ちそれは日本に罪ありと云ふ決議案である。日本に對する有罪の宣告、之を總會に採托して

貰ひたいと云ふ決議案、これは日本として見逃すことの出来ないものである、是が段々熟して行く日本は非常な不利な立場に立たねばならぬ。此案が出たことの分つた晩に、松岡さんは、これはどうしても一つ爆彈を投げて着かす必要がある、之を投げると或は事態が愈々悪化するかも知れぬ或は和協の途に拍車をかけることになるかも知れぬと云ふ、此二つの考へが争つて代表部では色々考へましたが、結局松岡さんの説の通り爆彈を投げると云ふことになつた。

これは總會になつてからです。全體の空氣が和協に進みつゝある時、これをぐつと元へ硬化させるかも知れぬ危険性のある爆彈であります、若くは之が爲に其四ヶ國の決議案をべいやんにしてなほ強く和協の途に拍車をかけるかも知れん、乗るかそるかの大賭博であります。此危険を賭けて松岡さんは威脅されました。即ち緊急動議として出されました。それは確か十二月八日の會議であつたと思ひます。これで松岡さんは十五分か二十分の理事會ですが、

只今配布された四ヶ國決議案であるが、日本の最も遺憾とする所である、此決議案は日本として黙つて見逃すことは出来ない、何故ならば、此決議案は日本を有罪と認めるものであるから、斯う云ふ無禮な決議案は和協の精神と最も縁遠いものである。四ヶ國は此決議案を撤回しろ、若し撤回が出来



なければ速座に此議場で決を取つてくれ、我輩は此總會の心持を知りたいのだ。此決議案は扱ひ方に依つては此決議案を提出した代表の豫想もしなかつた結果を起すかも知れぬ。

斯う云ふ威嚇的の爆弾であります。

之を投じられた朝、議場は非常な混亂を來した。其提出者たる四ヶ國側があわてたのみならず、時遇々サイモンもボンクールも居なかつたのですが、大國側も非常にあわて、サイモン、ボンクール達を呼びに行つた。二人もあわて、飛んで來る、英佛の代表達を呼んで隣の部屋で一時間半の討議をした。さうなると議場は三分の一か半分も代表達は居ない。何をして居るのかと思ふと隣室でどうしたものだらうと、大あわてのあわて方である。此處で會議は決裂するかも知れぬ危険を孕んだ様であります。

結果は小國側が折れ、此決議案はさう云ふ趣旨で出したのではない、撤回すると云ふ譯にも行かぬから、兎に角十九人委員會に出して、總會で決を取つて貰はなくても宜いと云ふことに、丸一日を費して決議して無事に納めたのであります。

### 滿場を魅了した大雄辯

此爆弾を投じた午後、松岡さんは一時間半に亘るあの歴史的大雄辯をふるはれたのであります。それはあの議場に於て松岡さんが、日本の本當の腹、世界に對する日本の堂々たる宣言、日本の根本精神を宣揚されたのであります。

日本は今六千五百万國民が一人の如く結束して立つて居る。日本に自由主義者と國粹主義者と對立して居る、即ち日本國民の半分は今の政府の態度に反對だと云ふ様な心持を西洋人は持つて居るのであるが、それは非常な間違である、日本國民は舉國一致、我輩の言ふことを貫かうとして居るのである。諸君は日本の態度を非難する、世界の輿論は寄つてたかつて日本を抑へ様として居るが、其諸君の方が間違つて居る。ナザレのイエス、あれはどうだ、君等の最も尊敬するイエスはどうした、あの時の輿論は寄つてたかつて彼を磔にした。所が磔にした後二千年、君等は彼の精神の前に、魂の前に跪いて居るではないか。日本は今其イエスの如く世界の輿論に反對しても正しいと認めて居る所を主張し、實行しつゝある。諸君は日本が間違つて居ると考へて居るか知らぬがそれは諸君の方が間違つて居るのだ。日本は今磔にあつて世界の輿論がどういふ制裁を加へ様としても頑として之に反抗する



決心を持つて居る。日本の正義は滿洲を救ひ、支那を救ひ、極東を救ひ、世界を救はうとしつゝあるのだ。日本の精神が寧ろ正しい、日本の正義が全世界を支配する時代が必ず来る。

斯う云ふ日本の根本方針を、正義の心持を、はつきり勇敢に、雄辯に説明されました。此の大雄辯は、議場を酔はして居るが如くでありました。米國陸相ハーレーの如きも「今迄二三十年の外交官生活の中でこれ程の雄辯を聞いたことがない」と云ひ、佛蘭西のボンクールも「ベルサイユ會議に於けるクレマンソーの大演説に匹敵する演説であつた」と云ふ感想を漏した。これは誰にも言はなかつたが、各國の代表も同じ心持であつたらしく見受けられました。其言ふ所を良しとするも悪しとするも、皆此一時間半の松岡さんの大雄辯に魅せられました。そして總會は其翌日終了致しました。總會終了後、言ふべきことは皆言つて、後はどうするか、もう説明は要らない、どうするかを各國代表と膝突合して話す、それが日本代表に残された問題でありました。松岡さん及び二代表、其他代表部員も之を救けて寢食を忘れて活動されました。是は非常に困難なことである。議場で演説をするよりも、一方を納めんとする口説きの努力は新聞には餘り現れませぬでしたが苦心は非常なものであります。之を長く續けられたが、結果は今日の様な事態に立至つたのであります。

### 外人の間にまで賞讃を博す

其處で松岡さんの雄辯の結果、各代表口説きの結果、此決裂になつたと云ふのは要するに松岡さんが餘り強硬過ぎて反感を持たれたからではないかと云ふ御尤もな質問を受けます。併しながら私等があらで見て居りました所に依ると松岡さんの評判は非常に宜い、日本國民の中に宜いと云ふのは當然として、毛唐の中に於て全部が反感を持つては居なかつたと思はれる。松岡さんの演説の明の結果、日本から激勵の電報や手紙の來るのは勿論であります。外の國々からは日本の代表を激勵した手紙が來る、電報が來る、中には挨拶に來る者もある。これは珍しいことです。此激勵の手紙の中に吾々は初めて日本を理解したと云ふのもある。松岡代表の言はれることは我輩平常考へて居つた所で實に宜いことを言つてくれた非常に痛快である、今後其調子でやつてくれと云ふ激勵もある。

ある一つの例ですが、これは其間に紹介されると思ひますが、某國の前外務大臣で今聯盟の少數民族問題の有力なるリーダーである、理事としても古顔の方があります、其人が匿名で松岡さんの



記事を書いた。

日本の今迄の外交は賛成外交であつた。日本は聯盟に参加して十何年、佛、英、伊、獨等の代表が何か持出すと、それは賛成とすぐ手を上げた。其結果は日本の重大なる利害に關する條約を巧妙に何時の間にか侵害されて居つたに拘らず、それに氣づかずして賛成をして居つた結果、日本は此難局に立つて、日本は今迄の外交で損をした、日本は言ふべきことを言はなかつた。今迄の外交官は十分に日本の考へを明にして居らぬ、言ひたくても言へなかつたのか、言ふ必要がないと思つて樂觀して居つたのか、兎に角言はなかつた。所が今度の會議で日本政府は今迄の外交のやり方の非を悟つたと見える。そして松岡と云ふ男をわざ／＼派遣した、此松岡の風格を見ると、其話を聞いて見ると、吾々が物の本で讀んで居る日本のサムラヒ、サムラヒそのものゝ様な感じのする男である、其サムラヒがジュネーヴに乗込んで來た。其言ふ所を冷かに聞いて見るに、成る程日本はさう云ふ心持であつたのか、さう云ふ立場に置かれて居つたのであるか解つた。支那はあんな悪宣傳をやり、輪をかけて物を言ふ、そして皆を胡魔化してゐる。吾々も日本は何か宜いことがあるだらうと思つて居つた。滿洲事變突發直後の理事會、春の臨時總會、是等でも色々日本が言つたが、何か外に未だ宜いことがあるだらうと思つて居つた、所がそれを聞くことが出来なかつた。然るに此ジュネーヴの臨時總會で日本のサムラヒが來て率直に、大膽に、腹の底を割つて話をした。それで非常にはつきりした、吾々

は今迄危險視して居つた何もかもあつたやうな氣がする、今初めて溜飲が下つた様な氣がする。支那のにくらしい程の雄辯の悪宣傳が、いやんこにやられたことを痛快に思ふ。今後は此松岡に依つて確立された外交のやり方であつて行くべきである。さうすれば今迄より、將來は必ず世界が日本について來るだらう。

斯う云ふはつきりした評論を書かれました。斯の如く松岡代表は西洋人の間でも評判が悪くなかつたのみならず、賞賛を博した最も偉大なる一證左として私は諸君にお傳へしたいのであります。

(拍手)

### 勸告案は歐洲小國の保障案

其處で聯盟の勸告案を見る。松岡代表及私が代表の活動に依つて西洋人が極東の事態をはつきり認めたと拘らず、どうしてあんな勸告案が出来たのであるか。是は日本に取つて非常に不利な勸告である、これはもう少し何とか軟い勸告案が出来なかつたものでないかと云ふお尋ねであります。御尤もです、小國達はそれ位はつきり解つたならば何故あゝ云ふ勸告案を出さうとしたか。矢張り



聯盟の大勢は日本を理解しなかつた、極東の事態に對する正確なる認識を持たなかつた、だからあなつたのだらう、第一聯盟の小國達は極東に何の利害關係を持たないのみならず、滿洲には利害關係を有しないのだ、それだのにあつたことをやつた、これは要するに小國達が支那が可愛いから日本のやることを妨害するのだと考へられ勝であります。

私等もさう云ふ心持を持つてジュネーブに入りました。小國が生意氣だと言つて聞いてやつて分れば態度を變へるだらう。斯う云ふつもりで出かけました。所が向うに行つて、松岡、佐藤、長岡等三代表が各國の代表達と何遍も膝をつき合して折衝された結果、其誤りであることがはつきり致しました。

それは斯う云ふことである。専門的に物を言つては長くなり又はつきり致しませぬから私の作つた單純な話を以て此問題をお話し致したいと思ひます。日本の立場はけしからんちやんころの頭を殴つた。是が何が悪いんだ、日本人に對して支那人はボイコットを食はした。唯商品を賣らないだけならば宜しい。町を通る日本の小學生に唾を吐掛ける。日本の女性に罵詈謗を浴せかける、日本の商人が商品を運送して居ると途中で奪つて之を差押へると云ふ様な色々な迫害を加へて支那に

日本人が居たゝまれなくする、或は滿洲に行つて居る朝鮮人が刻苦精勵して造り上げた水田を暴力を以て奪ひ取つてしまふとか、日本は滿洲で嚴然たる條約の上に土地商租權を持つて居るに拘らず土地を買はうとすると役人は許さない、賣つた者は死刑に處するか懲役にやつたりする、日本はあらゆる正當な權益を支那の態度に依つて妨害され、喪失せられた、此けしからぬ支那の頭を殴るのが何が悪い、吾々は日本の家の爲に、生命の爲に、權益の爲に正當の立場に出たんだ、是がどうしていけないのだと云ふのが日本の立場であります。

所が歐洲の諸國は之に對して別の立場を持つて居る。歐洲の諸國は條約の保障に依る強國の支持に依つて初めて生きて居る、彼等は日本の此考へ方は悪い、日本にも斯う考へて貰ひたい、凡そ人様の頭を殴ることは悪い、さう云ふことを日本に是認して貰はなければならぬ、場合に依つては頭をぶん殴つても構はぬ、打殴ることが何が悪いのだと云ふことは非常に困る。

話をチエツコ・スロヴァキヤに取ります。チエツコ・スロヴァキヤはボヘミヤ盆地を中心としてシレジャの山林地帯を加へて出來た國である。此チエツコ・スロヴァキヤの肝腎のボヘミヤ盆地の人口の三割位は純粹の獨逸民族、國籍はチエツコであるが血は獨逸人であります。其獨逸民族はチ



エツコに於て指導的地位を持つて居る、多數の有識者、資本家、企業家、さう云ふものは此獨逸人の中から多く出て居る、獨逸人から言ふと獨逸民族はあすこに莫大な投資をして居ると云ふことになる。此多數の人間を植付けて居る獨逸はボヘミアの盆地に特殊の權益を持つて居るのだと云ふ状態にある。其チエツコに於て、チエツコの政府が獨逸人を苛酷に取扱ふ、待遇を少しでも悪くしたと云ふことを口實として獨逸は自衛の爲に立たなければならぬ、そして軍事行動に出てチエツコの頭をぼかんと殴つたらどうなる。支那を日本が殴つて滿洲を手に入れた所で支那は亡びない、小さくはなるかも知らぬが未だ生きて居る。もう少し殴られてもまだ生きて居るでせう。併しチエツコスロヴァキヤの盆地を獨逸から殴られたならばチエツコはへこたれてしまふどころかなくなり殺され、人様の頭を特殊の事情がある、特殊の利益だと云ふて殴られたならば吾々の生命はなくなる。是はチエツコばかりではない、スエーデン、ノルウェー等北歐三國、ポーランド、是などは露西亞に對して同じ關係に立つ、ポーランドは又獨逸に對してもさうであります。スペインは佛蘭西に對して同様の關係にある、其他の小國皆近隣の大國を控へて居つて一殴りに殴られると亡びる地位にあります。此亡びることから救はれる唯一の途は人様の頭を殴ることは絶対に悪いと云ふ原則を取

つて貫はなければならぬ。彼等は松岡全權の説明、雄辯に依つて、極東の事態は解つた、リットンレポートの説明に依つて宜く解りました。實に特殊の地域である特殊の事情である、日本があれだけやつたのも無理からぬ點がある、さう云ふことははつきり認識致しました、併ながら私等の此生命はどうして下さる、私等の命を助けてくれと云ふ悲鳴であります。

事情が斯様にはつきり解つた後にあの勸告案が出来たのであります。日本があゝ云ふことをするのは無理ではない、あれを聯盟の中で正當化されることは困る、だから日本があれだけやるのは仕方がない、やつて下され、併し歐洲では絶対にさう云ふことをやつて貫つては困る、それで日本は別の世界に行つてやつてくれ、吾々は歐洲の世界で此原則を維持して行かうと云ふ兩方の立場がはつきりしたが爲に、あの勸告案が出来たのだらうと思ひます。

要するにあの勸告案は歐洲の小國の生命を確保する保障案であります。あれは滿洲のことを言つてゐるのではない、歐洲に於ける小國の存在を是認し、其生命を保障する爲に言つて居るので、言葉では滿洲のことを言つて居るけれども、精神は歐洲のことを言つて居るのであります。あの連中は滿洲問題を滿洲問題として考へて居ない。歐洲の問題として考へて居る。かるが故に小國の代表達



が取つた態度は自分達の生命の問題であるが故に非常に眞剣でありました。それはどうしても動かすことは出来ない。日本も自ら正しいとする態度を以て進み、各國が寄つてたかつても動かすことの出来ないものであると立場をはつきりさせ、其處にあの勸告案が出来たのであります。

### サイモン英外相の意圖

此勸告案を今見ますと、日本に取つて不利であつて支那の言ふことに近い、聯盟の小國達の言ふことに依つてあなつたに付て英吉利が先廻りをしてあふ云ふものを作つた様である。何故英吉利はあんなに貢献したかと云ふ質問を受けます。私等があらで見て居りました所では英吉利代表サイモンが和協を以て此問題を解決しようとする努力は實に眞剣でありました。英吉利は、佛蘭西もさうであります、極東に於て日本と同様の地位に立つて居るので日本と同じことをやらなければならぬのであります。であるから日本の態度を是認することは將來英吉利が同じことをやる場合に是認されることになる、それでサイモンは非常な眞剣さを以て小國代表を口説きに歩いた、それは表向きだけではない。確に眞剣であつた。英吉利は小國の立場を考慮に入れて、小國を動かす爲に

は日本の方にも幾らか讓歩をして貰はなければならぬと云ふことを申して居りました。凡そ十の主張をして五を譲り、向ふも十を主張して五を譲る、五と五と併せて十の結果を得ることが外交の常道であり、雙方の讓歩なしには外交の成立はありませぬ。有力の方が七を取り八を取り、弱い方が二を取り、三を取つて出来ることが多いのであります。

併し今度の日本の場合に於ては十を主張して十を取ると云ふことを國民に公約して居りますので主張することは全部貫かなければならぬ、でなければ國に歸つて申譯がない、日本の代表は斯う云ふ立場に置かれてあるが故に外交戦に於て一步も譲れない。此強い態度に對してサイモンはそれら困る、何でも宜いから俺の顔を立て、二か三か、せめて一でも譲つてくれ、さうすれば日本がこれだけ譲つたからお前等も納得しろと云ふて小國を口説くことが出来るからと拜む様にして松岡さんに談判したのであります。併ながら松岡さんは頑としてはねつけた。サイモンは又東京に駐劄する英國大使をして同じ様に外務大臣内田伯を口説かせたが、併し技でもぼんと蹴られた。何れにしてもサイモンは執念深く、根氣強く、日本を多少でも讓歩させ和協で納め様とやつたのであります。遂に日本の精神は和協で成立させる意志がないと云ふことを見抜いて第四項に移ることをサイモン



は是認致しました。

四項に移ることは小國達の希望する所である。其處で問題は一瀉千里、勸告案に至つてしまつた。其間にもサイモンは多少の未練があつたが故に第四項に移つても、四項の決議案が總會に採托される迄は和協で行く途がある。斯う云ふことを言ひ残したが故に日本は最後の誠意を見せる爲に精神に於ては少しも譲歩して居りませぬが、形に於て多少譲歩に見える様な最後訓令を出したのであります。けれども大勢はもう第四項で行かうと云ふ勢になつたが故に日本の少し位の譲歩の形では満足しなかつた、そして終にあの勸告案が出来たのであります。

### 經濟封鎖は不可能

此勸告案の精神は先刻申しました様に歐洲を救はんが爲のものである。此勸告案が出来た以上經濟封鎖を食はせるだらうか。是はなかなか困難な問題であります、一口に御返事することは危険であります、私個人の考へから申せば各國は日本に經濟封鎖を加へる趣旨を以てあの勸告案を作つて居るのではない、經濟封鎖を食はせる腹はないと斷言したのであります。聯盟の空氣が悪いが

故に日本の株が急に下つたさうですが、それはうろたへ過ぎます。

第一にあの勸告案が日本に對してあんなに不利に書いてあることは之を食はせる腹のない一つの證據である。次に各國は經濟封鎖を食はせることの出来ない事情にある、今日の歐洲、亞米利加もそうである。日本も亦そうであるが世界中不景氣である。此不景氣の世の中に經濟上の半身不隨状態を作ると云ふことは益々不景氣に拍車を加へることである、是は各國の滿洲問題に對する利害關係と打算して到底耐へられるものではない、だから經濟封鎖は食はせないでせう。何もあの決議案が出来たからと云ふてあれを強制する意志はない。

### イギリスの立場

第一英吉利が此勸告案をあれ位悪いものに拵へるに手傳つたのは特殊の事情があると私は睨んで居ります。それは英吉利が和協の爲に餘り眞剣になつて努力した結果日本の新聞で感謝された、サイモン感心だと褒められた、それが電報でジュネーヴへ直ぐ反映して新聞が、サイモン奴親日家になつたぞと云ふ印象を與へました。そして小國側は英國の外交を非難した。英國は聯盟の中で孤立



の立場に立つた、佛蘭西も同様の地位に居るのであるがサイモンを先頭に立て、ボンクールは後から突ついて表面に出て来なかつた。それが爲に比較的怨まれなかつたが、サイモンは勇敢にやつたが爲に日本で稱讃され、聯盟で睨まれた。

松岡さんの所へやつて来て「日本で稱讃され、感謝されて弱つた、悪く言つてくれるのなら宜い僕が親日家になつたのでは公平の様に見えない、小國を口説くに困るから、精々日本の新聞には俺の悪口を書かしてくれ」と云ふことを申込んだ位であります。それ位孤立の立場に英吉利は立つてしまつた。考へて見るに英吉利が歐洲で覇權を握つて居る所以は聯盟を通じての故である。若し此聯盟から排斥され一人立ちしたならば英吉利は微々たる一小帝國であります。歐洲の地理から言つても海の外にある小島國に過ぎない、是では英吉利は困る、だから聯盟に入つて、之を牛耳つて行くことに依つて歐洲の覇權を握つて居るのである。此意味で聯盟を出れば別問題であるが聯盟内に居る以上其中で怨まれては困る、斯う云ふ自分の立場があるので今度勸告案を出すに付ても、是は考へものである。

日本は第四項で行く以上は、どんなに柔い、優しい案を作つても参加しない、さう云ふ勸告案にはどうすることも出来ない、ぼんと蹴るに決つて居る、弱く書いても強く書いても此勸告案は日本が蹴飛すであらう、けれども日本に強制の出来ないものである。されば英吉利はどうすべきか。サイモンは考へたであらうと思ふ。斯うなると聯盟の決議を小國の言ふ通りにしてしまへ、さうして自分が先廻りをして、さうか、さう云ふことも宜からう、それも宜からうと小國の言ふことを全部背いて、あの勸告案に賛成した、此處に於て英吉利は元の信望を取返して歐洲に於ける覇權にゆるぎを來たさなかつた。之に依つて英吉利は歐洲に於ける地位を救はれてほつとしたのであります。

英吉利が最初和協で一先懸命やつた、續いて次に先廻りをして、ひどい勸告案に手傳つたと云ふことは實に豹變振も甚しい、誠意がない、けしからんと云ふので日本で餘程評判を悪くしました、英吉利は英吉利の立場から打算したであらうと思ひます。支那公使のランブソンから支那でボイコットを食はせさうな形勢にあると云ふ様な報告をされたり、或は戦債問題から、國內の情勢からも態度を變へなければならぬと云ふ必要もあつたかも知れませぬ。けれども根本の腹は歐洲に於ける覇權の維持と云ふ所から勸告案に對する豹變振を示したのではないかと思ひます。



### 聯盟規約第十六條

それ等から考へて日本に勸告案を強制する意志はない、強制し様にも仕方がない。經濟封鎖は直に食はせられるものではない、假に食はせると決心しても、日本が此勸告案を主張した支那に對して戰爭をしなければ制裁は加へられない。「勸告案が出来たぞ」ウン、さうか、俺は知らんぞ」と云うて日本が黙つて居ればどうにもならないものであります。それで彼等は先程申した様に歐洲に於ける自分達の生命を確保する、保障して貰ふと云ふことで勸告案が出来て居るのでありますから之を突つけられたからと云ふて日本は少しもあわてることはない、經濟封鎖を食ふ心配はない。

唯聯盟規約第十六條は嚴然として存在して居ると云ふ事實を注意しなければならぬ。此規定に依ると日本が此勸告案に拘らず支那に戰爭を仕掛けた場合には自動的に經濟封鎖の制裁を加へなければならぬと云ふことであります。日本が熱河を討伐しても滿洲の國內問題である、如何に兵を動かしても一時世界の輿論を刺戟するかも知れぬが、之に依つてはあの第十六條の規定は出て來ない。問題は支那本部にあります、日本が若し大部隊を動かして支那本部に侵入し、之を占領したならば

第十六條の規定は自ら動いて來なければならぬと云ふ嚴然たる事實をはつきり、日本國民として認識して居らなければなりません。是は錦州空中爆撃の如き事態とは全然違ひます、今や時は最後の瞬間に迫つて居ります。日本國民は此規定のあることを眼中に置いて將來の國策を決めなければならぬ。

### 米露の影響は微弱

未だ色々問題はありますが、斯う云ふ質問を受けたことがあります。亞米利加は國際聯盟の會議でどう云ふ影響を及ぼしたか、亞米利加は國際聯盟に這入つて居ない、けれどもオプザヴァーとして行つて居る、彼等が大いに反日的の策動をして、それが影響しはしなかつたか。日本で日本の新聞を見て居るとさう云ふことは非常に發見されます、併ながら私等現地の會議の事態を見て居りますと比較的日本で考へたよりも亞米利加の勢力は微弱である。第一國民感情の上から言つて、戰債の賠償金問題では亞米利加は高利貸と認められて居ります。歐洲の何れの國も結局亞米利加の搾取にあつて居る、亞米利加に利息を納めるが爲に、賠償金を拂つて居る、斯う云ふことが頭に這入つて居



るので、亞米利加は高利貸である、吾々を搾取するものであると云ふ共通の觀念を持つて居るので、亞米利加が色々策動した所でさう自由について來ない。亞米利加が英吉利を通じて反日的の行動を取りやしなかつたかと云ふ質問も受けますが、英吉利は又英吉利自身の立場がある、或程度共通の利害を持ちますが、根本の自衛の問題となれば決して亞米利加の言ふ通りにはならない。聯盟は勿論亞米利加の援助を希望して居りますが、亞米利加の方でもさう矢鱈について來やしないのであります。

露西亞の協力も期待して居るが、露西亞も亦自分の立場から物を言つて居る、よしんば招請してもやつて参りますまい、やつて行つたならば聯盟を引搔廻すだけである。此亞米利加、露西亞の影響は日本で心配して居る程のものでなかつた様である。

### 凡ては自衛本能から

時間も段々長くなるので小さいことは是位にして、要するに去年の秋から此冬にかけて聯盟の年度の會議、各國代表の此會議に於て貫いた指導的精神、根本の目標は何處にあつたか、それは、口

に言へば自衛本能である、實際の本能である、自分の自衛の爲にあらゆる言論を費し、あらゆる努力をした。

日本は自衛の爲に滿洲で行動を起し、自衛の爲に此大外交をやつた。小國は小國の自衛の爲に日本に楯つかざるを得なかつた。英吉利は英吉利の自衛の爲に、所謂日本に厚意を示した様に見える、悪意を示した様に見えると云ふ様な態度に出でざるを得なかつた。佛蘭西も亦同じであります。佛蘭西は英吉利の蔭に隠れて内心日本に賛成して居りながら、聯盟の會議では非常に曖昧模糊たる態度を取つた。是は何故か、矢張歐洲に一霸權を握つて居る佛蘭西は五つの妹國を拵へてやつたものである、是は日本が滿洲の獨立に援助をした以上の努力を以て陰謀的に、五つの小國を拵へてやつた。ベルギー、ポーランドはありもしない國と露西亞と獨逸の間に建て獨逸を監視し、露西亞を牽制させる、此爲に拵へた、チエツコ・スロヴァキヤの如きもありもしないものだつたが新しく拵へてやつた、ルーマニヤ・ハンガリーを引裂くことに依つて三倍の大きな國にしてやつた、ユーゴースラビヤも同じ三倍の國にしてやつた、是等を佛蘭西の妹國にして居る。此小國達の生命を脅かすと云ふことは、即ち佛蘭西自身を弱めることである。佛蘭西も自國の利害の問題になると此小國達が



事の善悪に拘らず結束して辯護すると云ふやうな立場に居るが故に、自分の身が可愛いが爲に、極東に於ては日本と同じ立場を持ちながら、歐洲の會議に於ては小國達の言ふことを押へることが出来ない、或る程度の賛成をして居ります。獨逸も、伊太利も何れもさうである。

即ち會議を指導した根本の精神は總て自衛からであつて、要するに自衛本能の暴露であり自衛本能の衝突であり、そして此賑かなる言論、浩瀚なる決議案は此自衛の本能を粉飾した結果に過ぎないのであります。

私等は此點に於て各國と共に自分の自衛本能を正當化することである、此會議の結果これは得たことである。日本も將來とも今迄の態度を貫いて進むにやましい所はない、各國は此自衛の立場から物を言つて居るのである、即ち日本から滿洲を奪つて支那に返す、腕力にかけても獨立を承認しないと云ふ氣持は少しもない、滿洲の不承認を決議したからと言つて吾々は何等心配することは無い。

日本も現に露西亞が旅順、大連を侵略した時に之に不承認の意志を表示した。最後迄不承認の意

志を表示した、それで關東州を露西亞から譲り受ける時に初て露西亞のものとして承認して、貰つたものである。

埃及に於ける佛蘭西も矢張りさうである。二十年もの長い間英吉利の保護國としての存在を佛蘭西は認めなかつた。日本の滿洲に於けるが如きよりも雄大なるあの埃及の事に付ても承認を與へず與へずと稱して、最後に英佛協調に依つて承認したのであります。

私の經驗した卑近な例を以て申しますれば、今度シベリヤの鐵道で日本に歸ります途中チエツコスロヴァキヤの元の外交官で今は巴里で或る會社をやつて居る男が居りました。其汽車の中で露西亞の觀光局の役人の案内で名刺を持つて私に挨拶に來た、彼はシベリヤを通つて上海に行き、彼地で會社を起さんが爲に來つゝあつた男であります。是非私に紹介してくれと言つて來たのであります。何の爲に來たかと云ふと

私は滿洲國を通つて上海に行きたいのである、所がチエツコの奴、一是は日本に最も正面の反對をしたベネツシユであります、一日本に楯つくものだから吾々は實際困つて居る、吾々は滿洲國を通つて上海に行かなければならぬのに、滿洲國を承認しないと云ふも



のであるから滿洲の領事が未だ歐洲に居らない、旅券の査證を得ることが出来ないので困る、吾々は早く滿洲國が承認されて歐洲に滿洲國の領事館が出来ることを希望する、どうか滿洲國に這入ると日本の勢力が強いさうだからあなたの盡力で滿洲國を無事通過出来る様、査證を得ることに協力してくれ、滿洲里迄行つて、査證がないからと言つて突返されたら非常に困る、金のこともあるが、事業の上でも非常に困る、だから是非滿洲國の査證を取る様に便宜を計つてくれ。

と云ふのでありました、よしと引受けて滿洲里でそれをやつてやりました所非常に感謝して居りました。

是は幾ら聯盟の中で其國の代表が滿洲を承認しないと云つて居つても、各國民が滿洲に利害關係を持つた以上は、否でも應でも承認に行かざるを得ない一つの軽いながらも例であります。

滿洲國を經濟的に門戸開放をする、治安を維持して立派な國にして行つたならば各國民は必ず滿洲にやつて来る、そして滿洲と經濟的にも必ず利害關係を生じて来る。各國の代表は滿洲國と云ふものを承認しない。リットン・レポートは滿洲國と云ふ所へは？を入れた、所謂滿洲國、彼等は滿

洲國を認めない、所謂滿洲國がどうした、斯うした、所謂滿洲國は日本の拵へたものである、所謂滿洲國と云ふ譯であるが、今度の會議の結果、歐洲の諸國の著書を見ても、新聞を見ても此は皆取つてある。いくら其國の代表が、所謂滿洲國と言つた所が各國の國民は此處に新しく世界の中に滿洲國が生れたと云ふ事實を認めて居ります。

是は政府の代表が口先で紙の上で、幾ら否定しても防ぐことの出来ない嚴然たる事實であります。滿洲國は斯の如くして漸次認められて行くでせう。現に滿洲國に關する本を、或は一つの論文を、記事を読まなければ向ふのインテリ、向ふの紳士階級としてサロンで話が出来ない程滿洲國は事實上承認されつゝあるのであります。それは此會議や決議や、さう云ふもので否定されるものではない。實際世界の隅々迄滿洲國と云ふものが各國の人民に——代表ではない——人民に依つて現に承認されつゝある證據であります。此事實を見て吾々は聯盟がどう云ふ決議をしようと各國がどう云ふ立場に立たうと、自分達の方針を貫き、嚴然たる滿洲國を守りたてゝ行けば何等の憂ひもな、日本の欲する通りの事態になつて行くものであると云ふ確信を持つて歸つて參りました。



## 平津より熱河を観る

東京朝日論説委員 大 西 齋

熱河問題が如何に平津間に衝撃を與へつゝあるか、北平及天津、即ち支那側の對熱河問題の策戦の根據地であり策謀地である樂屋が如何なる状態であるか、將また如何なる動向を辿りつゝあるかを見て参りました一般的感想をこれからお話ししようと思ひます。私は此目的の爲に一月末東京出發、二月初め天津に入り以來北平、天津間に約三週間滞在致して各方面の情勢を出来るだけ探り、歸途大連に出ました時は既に熱河討伐が開始されて居りましたので、奉天方面に於て熱河討伐の概況を聞いた上歸つて参つたのであります。

お断りしなければならぬことは、私の見聞致したことを出来れば船の中で纏めて歸りたいと思つて居つたのですが、本社として成るべく歸りを急いでくれ、三日に講演をするからと云ふ様な電報が参りましたので、飛行機を利用して奉天から本日やつと東京へ歸つた様な譯であります。



さう云ふ次第で旅装を解く暇もなく此演壇にかけつけた様な次第であります。或は前後混同致し、お聞きづらいただらうと思ひますが、其點は豫め御了承を願ひます。

私個人として大正十四年迄北平に約七八年社の仕事をして居つた關係上、平津間に一度参りたと思つてゐました。ところが今回時局切迫のため圖らずも實狀視察旁々約八年振りに出かけることとなりました。それ故に平津では如何に熱河問題を觀てゐるかを申上げる前に、私個人の平津に對する一般的感想といつたものを、暫く述べさして戴きたいと思ひます。

八年間と申すとさう長くはないが、今日のスピード時代、殊に支那の動きの八年間、又日本と支那との關係などが此八年間にどう變つたか、一言に盡せばそれこそ走馬燈以上の變化から變化へと異狀の變化を展開して居るのであります。昔居つた平津地方、或は今日の北平がどんな姿に變つてゐるかを觀たいと云ふ希望で一杯でした。

## 淋れた天津

熱河問題の白熱とともに平津方面は危険でないかと言つてくれた友人もありましたが、先方に参ると、日本で想像した程でなく、寧ろ意外の感に打たれる程先方は落着いたものであります。併し天津に着いた第一印象は如何にも淋しいと云ふことであります。是は歐洲大戰以來最近益々世界の不況が、世界化して何處にも景氣の好い所はないのと、殊に北支は熱河問題のために將來に對する不安が何となく掩ひ被さつてゐるせりでもありませんか、非常に淋しく感ぜられたのであります。

御承知の如く各國の租界が天津にはあつたのであります。獨逸、露西亞の租界が次々に支那側に返還されて今日では、第一特別區、第二特別區と云ふになりました。往時の露西亞租界、獨逸租界と云ふものは見る影も無いほど淋れました。之に次ぐものは甚だ遺憾ながら吾々同胞が第一線に立つて活動して居る天津の日本租界で殆んど火の消えた様な淋しい感じを受けました。

今日なほ天津に於て比較的隆盛な外觀を呈してゐるのは、佛蘭西租界と英國租界であります。日本租界が何故淋れたかと申すと時局の影響と排日排日貨のためであります。從來日支關係の悪化する毎に、排日が盛んになりました。尤もそれは南方に於て盛んであつて、北方では排日排日貨が



繰返されるにしても、南方程深刻なものではなかつたが、最近に至つては、南方と殆んど選ぶ所がない迄に深刻になりました。今迄排日、排日貨をやると、表面の取引は出来なくも、其處は裏もあり、相當抜け途もあり、融通性があつたので何とか縫縫も出来た、それに排日が済めばその反動で日貨は一時に捌け口を見出すと云ふ譯で日本の對支貿易は段々増しても減らないと云ふことが統計に現れて居つた。所が今日では所謂南に於ける排日の深刻さと同様であつて、南北を分たず排日が徹底して参りました、日本の商賣は殆んどばつたり杜絶して居る状況に置かれて居る。その排日貨の徹底化せんとする一例として、今度は支那側でも生産地の證明書を條件として日貨取締りの禁令を實行せんとして居るのであります。今迄は何とか出来たが今日以後全く日本の品物は北支方面にも這入れないと云ふ嚴重なことになつて参つたのであります。此爲に北支、殊に天津方面の日本の取引はその門戸を断たれてしまつた状態でありませぬ。

然し些細なことから日本と紛擾を起してはならぬと云ふ心配から、排日運動、學生運動を官憲で非常に嚴重に取締つてゐます爲め、表面を見たゞけでは何もないう様ですが、裏面では潜行的に益々排日貨が深刻となつてゐるのであります。

### 北平の近情

北平は私に取つて第二の故郷といひ度い位懐かしい所でありませぬ。北平位のんびりとした、落着きのある住み宜い所はないと私は考へて居りました。一木一石昔と變りはありませんが、それで感じはがらん洞の様な物淋しさでありました。恰度伊太利の羅馬郊外の廢墟に立つた様な感じが致したのであります。北平は何故に斯くさびれたか、もと／＼北平は生産都市ではなく一國の首都として歴史的價値と輝きを持つてゐた。盛大であつたと云ふのも一つに首府として中樞機關が存在してゐた爲めであるが、數年前國都を南京に奪はれ、國都としての存在價値が全然失はれた、このことだけでも北平に取つては致命的打撃であるのに、年々内亂が繰返され國民生活は脅威され、益々淋れる一方であつた。其處へ張學良專權時代が始まつた。北平における最初のうちは彼も自己の存立上苛斂誅求を手控へ、どうかして民心を收攬しようとして云ふ考へから勉めて寛大な政治を行つた。其結果一時は、北平も景況を盛り返へし、住民にも喜色があつたのであります。それも東の間で北平は一層悪くなりました。學良は平津間其他になほ十數萬の兵力を持つて居ります。之を養つて



行くためには漸次假面を脱いで苛斂誅求をやらなければ立つて行かない。而も熱河問題の刻迫につれて兵を動かして日滿兩國に對抗しなければならぬ、これがためには莫大の軍費を必要とする所から、張學良は税として取立てられるものは片端から取立てる、あらゆる苛斂誅求をやる。かうした關係から張學良に對する北平人の心理状態は今迄の軍閥乃至軍閥以上に悪感を抱く様になつて参つたのであります。

### 寶物移遷——奇怪な鐵

この外に極最近張學良、蔣介石、國民黨に對する極めて不評判の事件として、北平人の憤懣を買つてゐる事柄があります。

御承知の如く北平は支那の古い文化の淵藪であります。清朝時代の宮城内の文華殿、武英殿に古美術古器物の精粹が此處に集められ保存されて居つたのであります。所が熱河問題を口實に北平では不安心だと云ふので此寶物を一切南方に移したのであります。

北平といふよりも支那にとつて唯一の貴重な寶物が北平にあるといふことは、内外に對する誇り

であり、北平の遊覽客を引きつける魅力であつたのであります。それを持ち出されたために、北平は藻拔けの空になつて、魂を奪はれたと云ふ恰好になつたのであります。この誇るべき文化の結晶の殆ど總てを南方に持去られたのでありますから、北平の人達が非常に怨嗟の感を持つて居るのは無理も無いことと思はれます。

この貴重な寶物をどうして南方に持ち去つたといふことに就いてはいろいろの風説があります。米國から五千萬圓乃至一億圓の金を借りるんだと云ふ様なことを言つて居る人もあります。日本軍も關内に萬々が一這入るとしても寶物を掠奪したり、日本に持去る様な危険は斷じて有り得ないのであります。それは北清事變の時、各國の聯合軍の中には寶物を持つて行つた者があつたさうですが、日本軍は秋毫も犯すところはなかつたのであります。でありますから北平に寶物を置いても危険がない、にも拘らず、日支關係、滿支關係を口實にこの寶物を持ち去つたのであります。理由のないのに無理に持出したので自然疑惑の起るのは無理もありません。

寶物移遷に就いて私は實に奇怪なる噂を耳にしました。寶物はこれまでも内密に持ち出され、外國側の手に渡つてゐるといふことであります。話した人の名前は遠慮しますが、その人の話によ



ると、一流の某俳優を演劇の口實で態々歐洲に派遣し、その舞臺道具だといつて百個以上の寶物を持ち出させた。税關を無税でパスさせるため、それらの寶物は再び支那に歸つて來なかつたことは無論だとのことです。

また國民黨の元老格の一人である某氏が、支那文化の紹介とか何とかの名義で二回に亙つて百箱以上も歐洲大陸の某國に持ち去つたとのことであります。

さらにまた支那駐在の某國公使が歸國に際して六十個以上の荷物として持ち歸つたさうであります。

それから今度持ち去られた分は南京を通過して上海に運ばれ、某國銀行内に陳列され支那人の出入を禁じ外國人だけに觀覽させてゐるといふことであります。これもそのうちに海外に姿を消し再び支那の手に戻つて來ないだらうと云はれてゐます。持出される寶物中にはかけがへのあるものも尠くないが、支那に於て唯一のもの、それこそ世界にまたと無いものも尠くない。是が持出されて再び支那に歸つて來ない。抗日排日のために愛國、救國を叫びつゝある彼等が自ら支那の國寶を賣り、國家を賣つてゐるのであつて、これ位怪しからんことはないといふて憤慨して居るものもあり

ます。數だけ合はせて世間を誤間化するために、空箱を昇り出したことが、人夫の口から洩れたといふ話も聞きました。もつとも寶物行方物語りの風評がどの程度事實か保證の限りではありませんが、手段を選ばない支那の民族性からすると話半分としても、裏面に奇怪なる事實のあることだけは間違ひ無い事では無いかと思はれます。此寶物が斷じて再び北平に歸らないことだけは確かです。

北平はこれがため一層淋れることになりました。

斯う云ふことから軍閥の中でもモダン・ボーイである張學良は舊軍閥より判つた男だと買ひ被られてゐたかも知れませんが、益々苛斂誅求をやるばかりか、南京政府と組んで寶物まで賣るといふ感じを與へ、反張、反蔣、ひいては反國民黨と云ふ感情が可なり強くなつてゐると云ふことを聞かされたのであります。

先刻申しました様に北平にしても、天津にしても治安は嚴重に維持され、殊に北平においてさうであります。それは張學良は苛斂誅求を致しましてあらゆる方面から軍費を搾り取つて居りますけれども、北平の治安に對しては、極力その維持に努め、特に日本人に對しては保護を加へるといふやうな態度を示してゐる。そのため時局は暗澹であるに係らず日本人は平氣で少しも危險など



は感じません。

北平は支那全國の學生運動を指導した歴史を持つて居ります。其代表的の大學は所謂北京大學であつた。所が今日では學生運動を一切禁壓致し、學生運動は表面に認められないのであります。私の聞く所に依れば今日北平に於ける學生運動の中心は高等師範大學ださうであります、此學校では過激分子と國家主義青年の側とが激烈に對立状態を呈して居るさうであります、然しこれまた官憲の彈壓に依りまして殆んど鳴りを静めて居ると云ふことであります。

リットン一行が参りました時、北平には排日、抗日の傳單を以て埋められて居つた様な状態であつたのが、到着前に綺麗に取除かれ、一紙片もなくなつたさうであります。それが昨今又ぼつ／＼現はれてゐるといふことですが、愛國飛行機の義捐金募集、前線の將士慰問金募集に學生群を街頭に見かける位のもので、排日抗日は影を潜めてゐます。

いろ／＼の點から平津は私個人として轉た今昔の感に堪へなかつたのであります、一般的感想を申上げる爲に大變脱線しました。是から熱河問題を中心として北支の舞臺が如何に動きつゝあるか

又動かんとするか、所謂平津から觀た熱河問題の本題に這入らうと思ひます。

### 段氏南下の経緯

これに這入ります前に、私が東京を離れる數日前突如として段祺瑞が南に行き蔣介石と手を握つたと云ふ様な報道が來て、相當センセーションを起しました。私は天津に着くや段祺瑞は何故に南下せしやと云ふことの真相をつきとめて見たいと考へました。御承知の通り寺内内閣時代に段祺瑞相手に日本は一億數千萬圓の金を貸しました。當時寺内總理の考へでは、日支親善をやるには相手を選ばなければならぬ。四百餘州を見渡して本當に日本と手を握る男は彼れ段祺瑞であると目星をつけ、これに打込みました。丁度維新後南洲翁の手で軍の結束を圖り、その後國民皆兵の基礎と制度に發展していつたやうに、親分、兒分の私兵的分立關係から、支那軍を段祺瑞をして中央集權的に統制させようといふ見地から所謂段祺瑞の參戰軍を作らせ日本から數千萬圓の資金を供給したのであります。それが全部日本の期待に外れ段祺瑞は失脚する、其後北平に於て再び返り花を咲かせましたが失敗し、爾來今日迄民間にあつて悠々自適して來たのである。今日では實際の勢力と云ふ



ものは無く、元老的存在として認められ、聲望以外に實力として纏まつたものはないのであります。

所が熱河問題の影響が北支にもひた／＼と及んで来るやうになりました、將來の日支關係が何處まで悪くなるかといふことの虞れが在野の支那政治家に強く響いて、そこで段祺瑞を立て、北支を緩衝地帯にしたらといつたやうな考へが動いたやうに思はれます。段氏の幕下にさういふ考へを持つた人があつたことは容易に想像出來ます。國際聯盟があれだけの努力をしても、何等日支問題を根本的に解決し得る望みは無い。どうしても日支の間で解決する外は無い。少くもさうした氣運を作らなければならぬ。これがためには張學良に代ふるは段氏を再び世に浮び出させようとする意圖が段派のうちに動いたらしく思はれる。その段派のうちには急進派と自重論派とがあり、多年政權から遠ざかつて居る連中は、反張、反蔣、反國民黨のチャンスとして、此機會に北支に於て何とかしようといふ議論が起り、急進派は急激に策謀を決しようといふのに對して、段氏自身が果してどういふ意見を言はれたかどうか知りませぬが、私の聞いた所では、日支關係が今日のやうな状態を續けることは非常に憂慮すべきことである。此上更に喧嘩を續けて行つたならば東洋はどうな

るが、これこそ日本の利益でもなければ、支那の利益でもない。これに依つて利するのは歐米のみである。漁夫の利は歐米に占められる。これはお互に堪へられないことである。と言つて今日日支の間で直ちに問題の解決を期待しようが無い。自分の老骨が役に立てば、敢て一身を惜しむところが無いが、今日は少くとも其時機でないといふことで、段自身は自重論に組したといふことであります。

一方南京政府では、國際聯盟の形勢を支那に有利に導くために、支那自身南北相争つてゐるとか統制が取れてゐないとか他から指摘するやうな口實を與へぬための對外對内のゼスチュアーとして日滿に對する舉國一致の假面を必要とする點からと、北支に居る段氏が他に利用されさうな危険があることから、舉國一致のために段氏の一臂の力を懇望して參つたといふことであります。所が段派の中に自重論者のあることは一寸申上げたところでありますが、段祺瑞自身の自重論と、内部の自重論とが勝を占め、段祺瑞が急遽南下したといふ譯であります。國民黨としては舉國一致の假面を被る爲に、段氏を利用したといふのは斷言は出來ませんが、事實に近いものでないかと思はれます。



## 政治的及軍事的工作

熱河問題が北支、殊に平津間にどう云ふ影響を及ぼすかに付ては何人も斷言し得ませぬ。極端なる悲觀論者は兵禍は到底免れまいと見て居ります。所がいやそんなことはあるまい、平津間にそれは及ばないと極めて樂觀論を説く人もあります。これこそ神ならぬ身の知る由もないことであつて事實の證明に待つより他ないのであります。それでは北支に於ける支那側の政治的工作並に軍事的工作はどうか、これは表面から見ると舉國一致、南北一致で、日本に對し、滿洲國に對し、飽く迄決心して最後迄行くといふ外觀を呈して居ります。熱河問題が刻迫して參るに従ひ、北平方面の之に對する對戰準備は着々續けられたのであります。

申すまでもなく今日北平、天津方面における政治的、軍事的代表は矢張り張學良であります。此學良の首を覘ふ所謂反張、更に反蔣と云ふものは、北支に於てはうようよとして居るのであります。所が熱河問題が非常に急迫して來ると同時に、更に國際聯盟の動きがどうなるかに付て内輪喧嘩をんかして居つては支那全體の不利である、どうしても舉國一致で當らなければならぬと云ふ愛

國、救國の輿論に動かされ、これまで反張、反蔣であつた所謂馮玉祥系、閻錫山系、直隸系、段派と云ふものが、此輿論に依つて一致日本に當ると云ふことになりました。今迄張學良を倒す爲にいろいろ策動して居りました連中が一生懸命になつて日本と戦ふ爲に部下の軍隊を戦線に送ると云ふことを申出まして、形の上では各派協力、南北協力、舉國一致と云ふ様な形で日本に當る、軍事行動を進めると云ふことになつたのであります。

軍事行動に置きましても單に防禦的であるのみならず、積極的に、攻撃的に出得る配置を熱河方面及山海關方面にやつたのであります。これを日本流に解釋しますると如何にも堂々たるものであり、支那と雖も今度は最後迄日本と戦はんとする意氣を示し、表面から見れば日支の全面的な衝突迄發展しはしないかといふやうなことも考へられないことはありません。尤もさうでないといふ断言は出来ませぬが、支那の舉國一致と云ふことは表面だけのことで、政治的、軍事的内面は複雑であつて裏には裏があるといふことを知るのであります。

さて、支那側の軍事的行動、準備はどう云ふ風になつて居るかといひますと、白河の入口にある太沽といふところ、是は昔、明治三十三年ですが義和團事件の時に各國の聯合軍に依つて占領され



たのでありますが、義和團事件最終議定書に依つて、太沽に支那側は永久に砲臺を築き得ないことになつてゐるのであります。今日日支が相對して居る山海關、これは日本軍の守備區域になつて居ります。山海關から北平まで同じく議定書に依つて、鐵道を保全し治安を維持するために、各國で區域を分つて守備に任じて居るのであります。此太沽に参りますと、右側に塹壕を築き、蜿蜒として礮の塔のやうに砂饅頭が出来て居ります。これは太沽から塘沽まで互つてゐます。太沽はセントの産地ださうでありますので、塹壕などを築くには、最も便利なところださうであります。塘沽には塘沽から先にも諸處に塹壕があり、支那兵隊が盛に練兵をやつて居ります。太沽の砲臺もすつかり修築したさうであります。支那側は劉大璋(？)とか云ふ男を此防備司令に任じ、渤海艦隊——御話にならぬ貧弱極まるものであるが、これを太沽に集めるといふことも聞きました。義和團事變の議定書を蹂躪する支那側の不法行爲に對し日本側から嚴重な抗議を申出て居りますが、言を左右にして相手にしないといふことです。

それから今日熱河方面に居る支那側の軍隊は、所謂熱河正規軍と申しますものが、歩兵約四箇師團、騎兵約三箇旅團、その他熱河特務隊、獨立砲兵團、獨立騎兵團、工兵、輕騎兵といふやうなもの

のが入つて居るといふことであります。熱河省全體に所謂張學良の配下に屬する軍隊が四個師團三萬五千人あるといはれその他の敗殘兵何かを合せて五萬三千人位あるとのことであります。尙義勇軍に屬するものが約三萬六千、是は熱河省全體に散在して居る。その他に民軍と申しますか、やはり熱河に九千人ばかり即ち十數萬の兵が熱河省に入つて居る勘定であります。一時熱河にだけ十七萬の支那軍が居るといふことが傳へられました。是は聞く所に依ると熱河の山岳地帯にそんなに養ひ得るだけの食糧は無論ありさうありません。熱河の所謂首府である承德にそんなに澤山の軍隊は居ないらしいのであります。北平から熱河に行く主なる土地に澤山の軍隊が入つて居りまして、殊に北平から二時間位で行けます通州邊りにも澤山の軍隊が入つて居るさうであります。これが食糧を持たないで入るので商家には何十人と宿泊を強要する。掠奪はしないが食糧を供給せなければならぬから、商店は結局掠奪同様の被害を被つて居るといふことを聞きました。承德迄の間は大した町はありません。あれは寒村で、大兵の足場を得ることは中々困難であります。支那の方では一番困るのは糧食の補給であらうと思ひます。從來直隸派と段祺瑞派とか、或は直隸派と張作霖の奉直戰爭をやつたやうな場合に軍隊だけはどしどし鐵道を占領してお構ひなし、出動



しますが、兵站といふことに對しては甚だ無頓着で日本軍などとは全然比較にも何ともなりません。至るところで自供をやるのであります。今度は多少は準備したらしく、平津間の汽車で相當盛んに軍需品、食糧品を前線に輸送して居るのを見かけました。駱駝に麥粉の麻袋らしいものを積んで居ました。

山海關方面はどうかといひますと灤河の線に四五萬の兵が出勤してゐる。其後詰の兵が平津間に約七萬と言はれて居りますが、數萬の大軍があの一本の鐵道で運ばれるやうな次第でありますから、果してそれだけの大兵が出て居るかどうか、天津方面には約四萬、北平方面に三萬、張家に約一萬といふ概算になつて居りますが、これも何處までが確實か分りませぬ。兎に角、支那が非常な軍隊を熱河及山海關方面に動かして居ることは争ふべからざる事實であります。所が茲に面白いことは、さういふ軍隊の系統はどうかといふと、張學良自身の兵は餘り戦線に出して居ないことでもあります。山海關事件の起りましたときに、日本と衝突した第九旅といふのは張學良の直系軍であります。これは山海關の前線に出て居るが、灤河方面の數萬の軍は所謂馮玉祥系、或は閻錫山系其他の雜軍が皆押出されて居るのであります。雜軍を出来る丈け前方に突出して、天津、北平、

張家口、或は保定方面にかけて張學良自身の軍隊は駐めてあると聞きました。

それで張學良の本心を忖度するものは、どうせ日本軍と戦へば勝味はない。惨敗すれば元も子も無くなつて、張學良はそれこそ没落するから、手足纏ひの雜軍などを前線に出して、綺麗に日本軍に掃除させ、自分はそつくり手兵をそのまま持つて、何處に逃げるにしても兵を損んじないで地位を保持しようといふ腹だらうと見られてゐます。

## 蔣張の關係

次に張學良と蔣介石の關係ですが、愛國、抗日、舉國一致で大いにやらうと云ふ建前はこんな譯です。しかも大いに手を捉へてやらうといふ肝腎の蔣介石はどうであるかといひますと部下の軍隊は一兵も北支特に戦線には送つてゐないのであります。上海事件の時に戦ひました支那軍としては最も勇敢な十九路軍が北の方に來ると云ふ説もありますが、私の滯在中には上海事件後解散された十九路軍の落武者が二、三百人かそこら應援に來て居ると云ふ噂がありました。で蔣介石と張學良の關係はどうかと申しますと、今日あたりの新聞で見ると蔣介石も張學良には愛相を盡かし



自ら代つて北に出て引受けるといふ説もあるが、事實は一兵も北に出して居ないのであります。然らば蔣は張學良を援けて居かといふに、彼が一番學良を支持して居るのであります。それは張學良が若し北支那に於て倒れることがあると之に取つて代るべきものには皆従来の反張、反蔣の連中のうちから取つて代ることになります。さうなれば自然南方との連絡が断たれて仕舞ひ蔣介石としては最も困ることになります。それ故出来るだけ張學良を支持する、併ながら實力を以て今日迄は援助して居りませぬ。これ等關係から見ると蔣介石が行く／＼實力を北方に提げて来て援助するやうになるが、張學良が倒れた後蔣介石の信頼する者を北方に入れて北支を押へるか云ふことになるか、これは今後の成り行きを見なければ分らないのであります。唯財政的には張學良を援助しようとしてゐます。南京政府の總理代理格であり、大藏大臣である蔣介石の妻君の兄に當る宋子文が北平に飛行機で乗込んで参りまして排日、抗日の舉國一致の熱を煽るとともに、平津間の實業家と協議して軍費の捻出に力を注ぎ、同時に軍部の首腦者を饗應して、演説に訓戒にとことん迄日本と戦はねばならぬことを力説してゐました。上海事件が起るや十九路軍は蔣介石の手で解散されるとか、赤化してゐるとか、いろ／＼悪評を蒙つたけれども、事實はこれと正反對であつた。今度

も北支に於て日滿共同軍の敵を受けるのであるから、寝返るか退却するか戦意が始まらないなどの悪評があるが、それこそ丁度上海事件の場合と同じである。我が軍は誓つて滿洲軍、日本軍と死戦を交ふことを辭しないものだと思つて激勵したのであります。

宋子文の來平するや、彼の手で平津の銀行團との間に二千萬元の借款に成功したとの説もありましたが専門家の觀測では七百萬元位出來たと云ふがそれもどうか判らないと云ふことでした。兎に角相當の金を携へまして張學良、張作相、萬福麟、それに上海から來た救國會の會長黃炎培等と一緒にしまして北平から自動車を飛ばして熱河の戦線に行つて軍を撈らして歸つたのであります。さう云ふ關係から外觀からすれば南北一致、大いに抗日、排日、日滿軍と決戦すると云ふ非常な意氣込みのやうに表面だけは見ゆるのであります。

所が先程申した様に張學良自身がどれ程までの決心を果して有してゐるのか、また蔣介石自身にしても何處まで物質的にも實力の上からも熱河問題に力を注ぐか否かが疑問とされて居るのであります。蔣介石自身はどう云ふ考へを持つて居るかに付ては北方の人々は斯ういふ風に觀測してゐます。平津間は反張、反蔣の機運が濃厚でありますから、言葉を其儘信することの出來ないのは無論



であります。蔣介石自身今日自身の腹背に迫る共産軍を控へて日本と全面衝突をやること云ふことの自身としても國民黨としても自殺行爲であり破産であることは何人よりも彼れの知つてゐる通りであります。

然し今日この際日本と何とかしようといふやうなことは、彼としても考へる餘地がない。今日の南京政府は廣東派である孫文の息子孫科等と妥協して一つ世帯を張つてゐるが、廣東派一派は非常に排日抗日を煽つて居て、蔣介石を失敗させ、これを倒さうといふ政略的懸引から出發し、政府部内の内輪と廣東方面と聲息相通じて打倒蔣介石に馬力をかけてゐるのだとの説があります。また今日廣東派、廣西派其他の間には五省聯盟の策謀が行はれ蔣介石政權に取つて代はらんとしてゐるのだともいはれてゐます。蔣介石も南京に居れば、斯うした全國的抗日輿論の先頭に立たなければならぬ。このことを知つてゐるから共産軍討伐に名を籍つて、奔騰狂舞する排日抗日の空氣から遠ざかつてゐるのと、廣東軍や廣西軍が對日戰援助を理由として北上し、湖南湖北の地盤をねらふのに備ふるために蔣介石自身江西に出馬し、共産軍並に廣東廣西軍を牽制するためだと見られてゐます。かういふ譯で蔣介石の立場は今日非常に苦しく、それであるから張學良を援助せんとして

も自己の實力をもつて援助することの出来ないのはこれが爲めだといふ觀方をしてゐるものもあります。或は穿ち過ぎた説かも知れませんが、事實はそんなところかも知れません。

斯ういふ具合で、舉國一致の名の下に張學良を責任者として押出し、彼が早く失脚するのを待つて取つて代りたいといふ連中は天津方面に澤山あるやうであります。御承知の如く天津は所謂陰謀派の本據であり温床でありますゆゑに、失脚して天津に燻ぶつて居る連中は手薬煉引いて成行きを見守つてゐるのであります。張學良が倒れたならば自分達こそ北支那を拾收して政權を握らうと捕らぬ狸の皮算用をやつて居るのであります。私の會ひました連中は反張、反將の連中が多かつたせるからかも知れませぬが、さういつた連中は日本軍が熱河を攻略すれば、今度こそ間違ひ無く學良はへたばる。それであるが故に熱河問題は平津間には大なる波瀾を起さないで済む。支那の民族といふものは日本人の考へるやうなものではない、徹底的にとことんまでは決してやらない、非常に妥協性に富んで居る。それであるから熱河をやらればそれ以上戦ふやうなことは無い。熱河を日滿軍が取れば、張學良はいよ／＼没落、平津間は無事、萬事はかうした調子で片付き心配は要らぬ、斯う反將派、反張派の連中のあるものは公言して居るのであります。これとは反對に時世



が變つて今の支那人は、昔とは全然同じではない。であるから十九路軍のやつた程やらなくても、北方の軍隊だつてさう馬鹿にならない。山海關の戦鬪だつてなか／＼頑強にやつた。日滿軍に對してもやれるだけはやるに相違ない。餘り高を括ると上海事變のやうに日滿軍も飛んだへマを見るかも知れぬといふやうなことを言ふものもあります。

### 危機は到る處に伏在する

これから愈々結論に入りますが、私の平津間に参りました最も關心事は、果して平津間にも事が起るかどうか日滿軍の熱河攻略は平津間まで擴大するかどうかといふことであります。今まで申し上げましたやうに、張學良が倒されたならば、吾々の手で取つて代らう。國民黨のために荒された北支の禍を一掃しよう、實力は持たぬが張學良の倒れる機會がいよく／＼眼の前にぶら下つて來たので、これに期待を繋ぐ連中が多いのであります。この連中の期待が、當事と何とかは向うから外れるといふやうに總てが外れることとなるかも知れませぬ。

熱河問題のために張學良の運命が時々刻々迫まりつゝあることは疑ふべからざる事實であります。

す。曩に東三省を失ふや、平津間に於て十數萬の兵を養ふことは出来にくいし、財政上から見ても周圍の狀勢から見ても屹度没落するに違ひない。ところが事實は容易に没落しない。錦州を足場に於て滿洲國に策動するからこれをやつけたら参るだらうと見られましたが錦州を取られても一向参らない。然し、熱河と錦州とは問題の大小輕重が違ひ、熱河を失ふことは直ちに北支に影響を及ぼすことになりまして今度こそ學良も晏如として地位に安んずることは出来なくなりませう。

併しさつき一寸申上げましたやうに、彼は自分の軍隊を成べく損ぜないやうにして居りますが故に、北平に居られなくなつても從來馮玉祥が逃げ歩いたやうに部下軍隊を率ゐて何處か内地に落ち延びるか或は思切つて下野するやうになるか、たゞ何れにしても張學良が北支の實權者であるといふ地位を保つことが出来なくなつて行くといふことだけは、大體間違ないことではなからうかと思ひます。

義和團事件の當時のやうに北支が混亂せぬかといふやうなことを可なり心配する人があるやうであります。所が日本側では支那側が若し何かやれば、自衛上やむを得ずやらなければならぬが日本側から關内に對して攻勢に出るやうな考は毛頭ありませんから、問題は支那側の出よう如何にか



かつてゐるのであります。併しながら事の起るのは兩方の正々堂々たる戦から起らないで一寸したはずみから起るのであります。かうした點から見ますと、今日の平津は燐寸一本で火が點くやうな危険な情勢にあるといつても過言ではないのであります。

更に日本側に對する外國側の考はどうかと申しますと、一昨年天津事件の起りました當時は英國側、佛蘭西側とも、日本側に對して好意を持つたさうであります。聯盟の空気を反映してか、昨今の英佛の官意は必ずしも日本側に好意を持たない。寧ろ邪推と偏見をもつて臨んでゐるといふやうなことを聞きました。支那側ではこれまで總てを國際聯盟に手頼り、これがため間に合せの舉國一致をやるといつたやうな譯でも、一にも二にも聯盟の力、英米の力を藉りようと遠交近攻の外交に力を注いでゐます。南京政府も張學良の左右も親英米派で堅まつてゐます。聯盟の結果は支那側の有利となつたので頗る得意らしく新聞なぞも大々的に報道を掲げてゐました。然し心ある者は聯盟が支那側に有利に終止したことは支那側の面子が多少立つただけで實效は何もない、リットン報告書だつて何等日本を制し得なかつた。聯盟總會の決定も日本を抑へ得ないのみか、却つて益益日本をして態度強硬ならしめるのみで、支那に取つては寧ろ怖るべきものだけとして表面喜びな

がらも腹の中では非常に恐れて居るのであります。英米に縋つて何とか日本を抑へようといふことに外交上力を注いで居るのであります。

これに付きまして亞米利加が非常に支那側を物質的にも援助するといふやうな説がありますが、私が確かめました所では、米國政府は國家として積極的にも消極的にも援助してゐる事實は目下のところありませんやうです。唯商人の手から昨年飛行機を二十臺張學良に賣込み、その後英國から十臺、極最近伊太利から十臺這入つたといふことを聞きました。その他武器は相當に這入つてゐることとであります。支那側が歐米特に米國の援助を借りんとしていろ／＼努力をして居ることには疑ふべからざる事實であります。北平に先日宋子文が参りました時に、日本軍を關内に誘導して英米の干渉を惹起し、聯盟規約第十六條の制裁規定適用に持つて行くための支那一流の苦肉策として、英米の公使に對し日本軍が一步でも關内に這入つた場合豫め干渉を懇請したといふ噂があります。日本にも電報が飛んで居つたと思ひますが、これは本當かどうか知りませぬ。支那側が聯盟の好轉を切つ掛けにして益々列強を引いて對日干渉の切つ掛けを作らうとしてゐることは確かであらうと思はれます。かういふ關係から今日の平津は軍事的或は外交的その他の點から、一寸間違へ



ば直ちに事件突発しないといふことは何人も保證出来ないといふやうな状態になつて居ります。隨て日本としてはうつかり支那側の皮肉なる、思ふ壺に嵌つてはならぬといふことを私自身日本として警戒しなければならぬといふことを強く感じさせられた譯であります。

支那側は日本軍が入つて來ても、日本軍が亂暴狼藉をすることを恐れるよりも、支那側の敗兵が雪崩を打つて關内に入り込んで來た場合に、行き掛けの駄賃として亂暴狼藉の限りを盡すことを支那側自身怖れて居るのであります。北平の方は第一あの大きな城門を鎖せば、大體敗兵が來ても防げるであらうといふ考があるのです。天津より落着いて居ります。天津の方はそうは行きませんので、土囊や鐵條網を張つて備へるといふことを決議してゐました。

平津間の形勢がどうなるかといふことは、今後の事實が證明する以外何とも斷言出来ませぬが、危機の到る處に伏在して居ることは屢々申上げた通りであります。私自身はどうか平津間に兵戈の及ばないことを祈りつゝ歸つて來たやうな譯であります。初めに御断りしましたやうに、纏まらぬい話を致しました。これで失禮致します。(了)

### 北支の風雲と聯盟の真相

昭和八年三月十五日印刷  
昭和八年三月二十日發行

定價十錢

不許  
複製

編輯兼發行  
兼印刷人

印刷所

東京市豊町區有樂町二ノ三  
東京朝日新聞發行所  
刀 福 館 正 雄  
東京市豊町區有樂町二ノ三  
株式會社朝日新聞社支店  
東京朝日新聞發行所

發賣所

東京朝日新聞社  
大阪朝日新聞社



終

朝日新聞社発行

sen